

国語科学習指導案

指導者 尾道市立向東小学校 小丸 周平

- 1 研修テーマ 感想文が書けない！必要な手立てとは
- 2 日時 令和5年11月20日（月）第3校時
- 3 学年 第2学年1組 男子13名 女子11名 計24名
- 4 単元名 動物のすごさをまとめて感想をもとう
「ビーバーの大工事」（東京書籍 新しい国語二下）

5 単元について

（1）単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと（1）の指導事項「ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」「オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」を受けて設定している。

「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ」とは、文章の構成と内容を捉え、精査・解釈してきたことを踏まえて、文章の内容を、自分が既にもっている知識や実際の経験と結び付けて解釈して理解を深め、文章の内容に対して感想をもつことである。文章の内容を精査・解釈するには、文章の内容の大体を捉えたことを基に、文章の中の重要な語や文を考えて選び出す必要がある。

本単元「ビーバーの大工事」は、ビーバーが巣をつくるまでの順序が、その体のつくりや能力とともに簡潔に説明されているため、語や文を選び出す活動に適していると考えられる。また、家族総出で協力して作業をするビーバーの様子から、自分自身の家族との協力体験を思い出すことで本文と体験とを結び付けた感想を書きやすい教材であると考えられる。

（2）児童観

本学級の児童は、説明的な文章の前単元である「サツマイモのそだてかた」において、「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること」「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと」を目標とした言語活動を学習している。

しかし、レディネステストの「内容をとらえて整理する」問題においては、正答率が68%（15/22人が正答）と、学級全体に目標とした力が備わっているとはいえない。特に、問題文で問われている箇所が分からない状態で回答している児童が多いことが課題である。

また、事前アンケートにおいては「文章を読んで感想を書くことに苦手意識があるか」という質問に対し「苦手」と感じている児童が59%（13/22人が挙手）という実態がある。これまでに感想文を書く機会が少なく、「何を書いていいかわからない」という訴えがよく聞かれる。

このような実態を踏まえ、文章を読んで考えを形成する力を身に付けさせる必要性は高いといえる。

（3）指導観

指導に当たっては、「文章の内容と既存の知識や体験とを結び付ける」経験がまだ少ないことに配慮し、単元開始時や活動開始前に教師が例を提示することで見通しを与えたい。その際、「自分の体験を結び付ける」ことがどのようなことを指すのか、低学年が理解しやすい具体的な表現になるよう留意し、書く活動への手立てとなるようにする。例えば、「ビーバーが家族と協力して作業をする」という内容に焦点をあて、児童が協力して取り組んだ運動会や音楽発表会の映像や写真を用意して関連付けさせたり、家族の安全や家族と協力して取り組んだ思い出を想起させたりする。

また、感想を書くためのワークシートは同ページ内に「文章を読んで理解したこと」と「自分の体験」を書く欄を設け、事前に書かせることで感想を書きやすくする。さらに、感想を書く欄には①文章の内容、②自分の体験、③①と②を結びつけて解釈し理解を深めたこと、④文章の内容に対する思いという4つの記入欄を設けることで、どの順序で書けばよいのか分かりやすくする。

単元末には、児童が自分の選んだ図書で考えの形成が行えるよう、あらかじめ、なるべく多くの図書を読ませておき、第一次の時点でどの動物についての図鑑を作成するか決めさせることで、見直しをもって学習が行えるようにする。

6 単元の見目

- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕 ((2) ア)
- 文章の中の重要な語や文を考えて選り出すことができる。
〔思考力, 判断力, 表現力等〕 C (1) ウ
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて, 感想をもつことができる。
〔思考力, 判断力, 表現力等〕 C (1) オ
- 言葉がもつよさを感じるるとともに, 楽しんで読書をし, 国語を大切にしてい, 思いや考えを伝え合おうとする。
「学ばに向かう力, 人間性等」

7 単元の評価規準

動物の体のつくりや生活について説明した図書を読み, 考えたことを文章にまとめる活動 【言語活動例 読むこと ア】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・順序など情報と情報との関係について理解している。 ((2) ア)	・「読むこと」において, 文章の中の重要な語や文を考えて選り出している。 (C (1) ウ) ・「読むこと」において, 文章の内容と自分の体験とを結び付けて, 感想をもっている。 (C (1) オ)	・粘り強く, 文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち, 今までの学習を生かして文章にまとめようとしている。

<評価の具体及び手立て>

評価規準【「おおむね満足できる」状況 (B)】		「努力を要する」状況 (C) と判断した児童への指導の手立て
<p>思考・判断・表現</p>	<p>・「読むこと」において, 文章の中の重要な語や文を考えて選り出している。 (C(1)ウ)</p> <p>・「読むこと」において, 文章の内容と自分の体験とを結び付けて, 感想をもっている。 (C (1) オ)</p>	<p>「努力を要する」状況 (C) と判断した児童への指導の手立て</p> <p>C (1) ウに関する手立て 重要な語句を選り出すことに難渋している児童に対しては, その動物について書いてあることで, 何が一番すごいと思ったか, 真似したいと思ったところはないかといった質問をすることで, 文章内で注目する視点を与える。</p> <p>C (1) オに関する手立て 自分の体験と抜き出した語句とが関連付いていない場合, 抜き出した語句について自分と同じところや違うところがないか考え, 比較させることで, 関連付けられるようにする。</p>

文章中の重要な語や文を考えて選り出すことができているかを見取る。

文章から選り出した語や文に対して, 自分の体験を結び付けて, 感想を書いているかを見取る。

8 指導と評価の計画（全 11 時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・ 評価方法 等
一	1	教師が動物について調べた内容と、教師の体験とを結び付けて考えたこと、感想を紹介する。単元末には同様の活動を児童が行い、学級の「みんなのかんそうつき！ 2-1 どうぶつ図かん」を作成することを伝え、学習の見通しを持たせる。 「ビーバーの大工事」という題名から、どのような内容なのか連想する。				
二	2	教材文を読み、内容の大体をつかむ。ビーバーの「大工事」はいくつあるのか考え、大きく3つに分ける。(①木を切り倒して運ぶ②水中にもぐってダムを作る③湖の中に巣を作る)	○			[知識・技能] <u>ノート・発表</u> 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
	3	本文の事例が述べられている順序について考える。		○		[思考・判断・表現] <u>ノート</u> ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。
	4	ビーバーの巣の特徴について捉え、なぜ湖の真ん中に巣を作るのかについて考える。				
	5	教材文の内容と自分の体験とを結び付ける。結び付けて解釈し、理解を深めたこと、文章の内容に対する感想をまとめる。		○		[思考・判断・表現] <u>ワークシート</u> ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 ※記録に残す評価は第三次で行い、本時では指導に生かす評価にとどめる。
三	6 (本時)	自分がまとめた動物を決め、情報を集める (読書)。			○	[主体的に学習に取り組む態度] <u>児童の様子</u> ・粘り強く、文章の内容と自分の体験を結び付けて感想をもち、今までの学習を生かして文章にまとめようとしている。
	7	自分がまとめた動物に関する情報を、ワークシートにまとめる。				
	8	まとめた内容と自分の体験とを結び付ける。結び付けて解釈し、理解を深めたこと、文章の内容に対する感想をまとめる。		○		[思考・判断・表現] <u>ワークシート</u> ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。
	9					
	10					
	11					

9 本時の学習

(1) 本時の目標

ビーバーについて学習したことで、自分の体験とを結び付けて感想をもつことができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 自身の生活を振り返り、体験と文章の内容とを結び付けて感想をまとめる。</p> <p>3 振り返りをする。</p>	<p>□ビーバーのすごいところは、どんなところですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きなダムを作る。 ・他の動物におそわれないように、みずうみのまん中にすをつくる。 ・夕方から夜中まで、家ぞくそう出でさぎょうする。 <p>□ワークシート①に、ビーバーの一番すごいと思ったことを書きましょう。</p> <p>例：ビーバーは家ぞくそう出でしごとをします。</p> <p>◆前時までの学習を想起しにくい児童には、ビーバーの能力や暮らしぶりについてまとめた掲示物を見せ、その中から選ぶことができるようにする。</p> <p>□ワークシート②に、自分や、まわりの人がやったこと、していることを書きましょう。</p> <p>例：ぼくの家では、お父さんとお母さんがはたっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のこぎりで木を切るところを見たことがある。 ・プールでおよいだり、もぐったりした。 <p>◆①と関連付かないことを書く児童には、個別に児童自身の知識や経験を尋ねる。</p> <p>□ワークシート③に、ビーバーと自分たちを比べて同じところやちがうところ、考えたことを書きましょう。</p> <p>例：ビーバーも、自分の親も、家族のためにはたっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大工さんが木をけずり、木を持ち上げて家をたててくれた。家族は家をたてていない。 ・ビーバーは長い時間水の中にもぐれるけど、人間はそんなに長い時間もぐれない。 <p>◆①や②と関連付かないことを書く児童には、③と結び付く文章の内容はどこか、そこから想起できる知識や経験は何かを尋ねる等の支援を行う。</p> <p>□ワークシート④に感想を書きましょう。</p> <p>グループで紹介してみよう。</p>	<p>[思考・判断・表現] (ワークシート, 発言) 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p> <p>※記録に残す評価は第三次で行い、本時では指導に生かす評価にとどめる。</p>

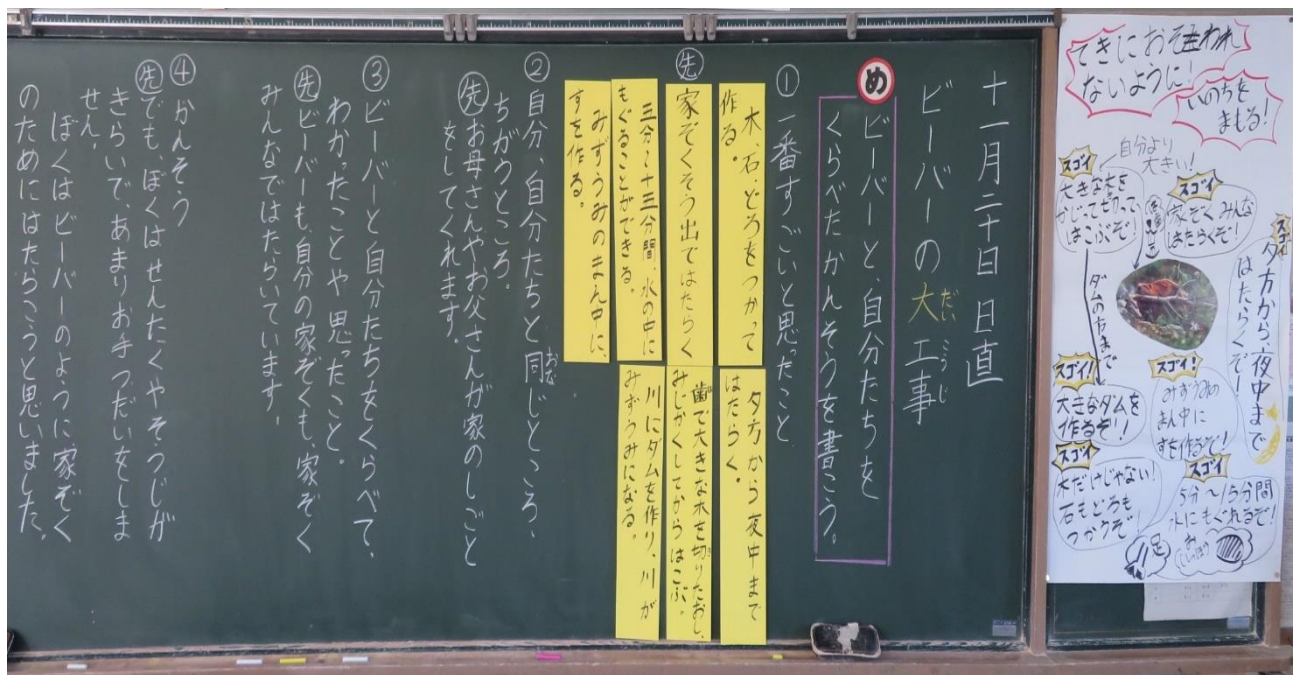
(3) 板書計画

<p>④ かんそう でも、ぼくはお手つだいがきらいなのであまりしていません。 これからは、ビーバーのように家族のためにお手つだいをしようと思います。</p>	<p>③ 自分たちとくらべて同じところ、ちがうところ ビーバーも、自分の親も、家族のためにはたらいている</p>	<p>② 自分やまわりの人がやったこと、していること ・お母さんやお父さんがしごとをしてくれる</p>	<p>① 一番すごいと思ったこと ・大きな木を切りたおす ・木をくわえたままおよぐ ・五分以上水の中にもぐる ・家族そう出で、ダムやすを作る</p>	<p>① め ビーバーと自分たちをくらべたかんそうを書こう。</p>	<p>ビーバーの大工事</p>
--	--	---	--	--	-----------------

10 指導の実際

(1) 指導上の工夫

- ・ビーバーがダムや巣を作る工程を時系列順に並べた短冊や、児童がビーバーの能力について「すごい」と思ったことを絵や文で教室内に残しておくことで、本時で児童が学習したことを想起しやすいようにした。
- ・板書にワークシートの記入例を書き残しておくことで、見通しを持たせるようにした。また、黒板横に前時までの学習の記録を掲示し、学習を視覚的に想起しやすくした。

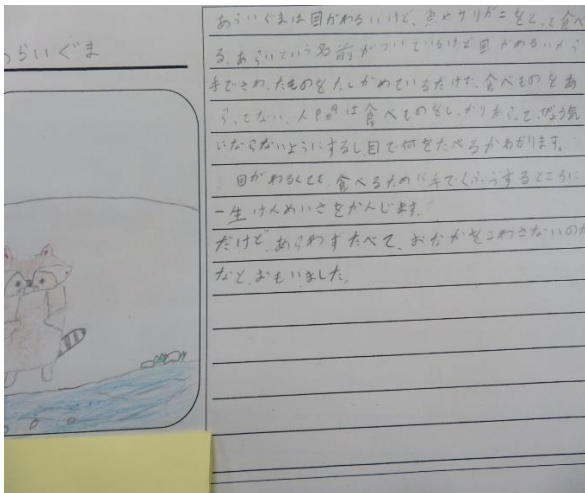


(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

- ・自身の経験が少なく、本文中の内容と経験を結び付けることが出来ない児童に対しては、本や人から聞きした知識でもよいことを伝えた。それにより、自身の経験ではなく人間の能力や職業を例として挙げる児童が増えた。
- ・評価する感想文（動物図鑑）を書く前に、ワークシートで項目ごとに書き出す作業を行った。感想文はワークシートを見ながら書くことができるようにした。ワークシートを完成させた後は、ほとんどの児童が感想文を書く作業に取りかかることができた。

11 評価の実際

(1) 評価の具体



動物の習性や能力と自分の経験とを結び付け、感想を書くことができていれば「おおむね満足できる」状況（B）とする。

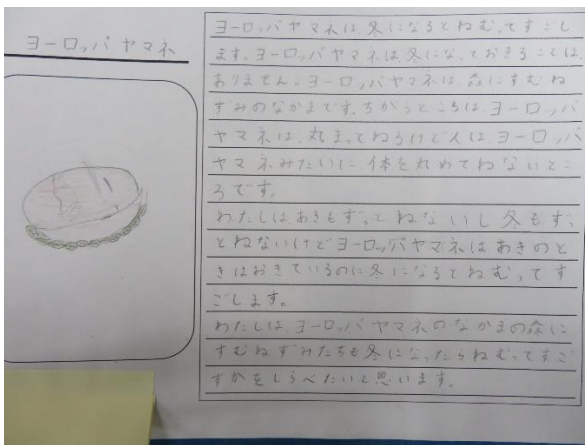
左の児童の感想文は動物の習性と人間との違いを書き、感想を書くことができています。「アライグマは目が悪いけど、魚やザリガニを捕って食べる。あらいという名前がついているけど、目が悪いかから手で取ったものを確かめているだけで、食べ物や洗っていない。人間は食べ物を洗って、病気にならないようにするし、目で何を食べるか分かりません。目が悪くても食べるために手で工夫するところが一生懸命さを感じます。だけど、洗わずに食べておなかを壊さないのかなとも思いました。」

(2) 児童の評価

ワークシートを作成した時点で、約半数の児童が、本から抜き出した内容と感想とが関連付いていない「努力を要する」状況（C）であった。原因は、自身の体験を書く欄に、本の内容と関連の無いことを書いていることであった。実際に自身が体験したことでもなくとも、本や人から見聞きした知識でもよいことを伝えたり、抜き出した内容と関連あるものを書くよう指示したりすると、関連する知識や経験を書ける児童が増え、約7割の児童が「おおむね満足できる」状況（B）となった。

12 成果と課題

(1) 成果



「おおむね満足できる」状況（B）であった児童のほとんどは、感想を書く際に「自分もこの動物のように〇〇したい、〇〇なりたい」という内容であったが、今回の単元を学習したことを生かして「もっと〇〇を調べてみたい」という感想を付け加える児童もいた。左の児童の感想では「同じ森に住む他のネズミたちも、同じように眠るのか調べてみたい」と締めくくっている。

また、これまでの日記や作文課題では事実だけを述べて感想や思いを書くことができていなかった児童が、今回の学習で粘り強く感想を書こうとしている姿を見取ることができた。

(2) 課題

今年度の国語科の授業において、感想文を書かせる機会を設けていなかったことから、本単元において児童が感想文を書くことに抵抗感や苦手意識が強かったと考える。今後は他の説明的な文章についての感想文を書いたり、定期的に貸し出しされている本の感想文を書かせたりし、文章の内容に対してもった感想を文章に書きまとめる力を付けていきたい。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
動物のくらし	今泉 忠明ほか	学研プラス
こんにちは、ビーバー	佐藤 英治	福音館書店
ざんねんないきもの事典	今泉 忠明ほか	高橋書店
動物のちえ（全5巻）	成島 悦雄	偕成社